

大学入試センター試験2018 結果報告

1月13日、14日に実施されたセンター試験。19日には中間集計その2が公表され、得点調整は実施しないと発表された。

1. 2018年度センター試験の概要

志願者数は582,671人で、現役生は473,570人(81.2%)でした。参加大学は、昨年より微増で国立大82、公立大86、私立大526の計694大学でした。



2. 本校での志望状況

本校では、卒業予定477名のうち88名が志願し、1月15日(月)に行った自己採点には54名が参加しました。その日の午後の結果を大手予備校(駿台・東進・河合)へ送付し、18日(木)に結果シートが返送されました。



3. 出題傾向

「数学Ⅱ・B」では、解答を選択肢から選ぶ形式の問題が大幅に増加しました。また、昨年度まで見られた分野をこえた融合問題がなくなり、若干、解答しやすくなっていたようです。2020年度以降の大学入試センター試験改革を控え、今後の動向が気になるところです。地理歴史の「世界史B」では、グラフの読み取り問題が3年目の今年も出題され、定着した感があります。「日本史B」も史料・資料の読み取り問題が例年同様出題されました。これらの図版を用いた出題には周到な準備が必要でしょう。

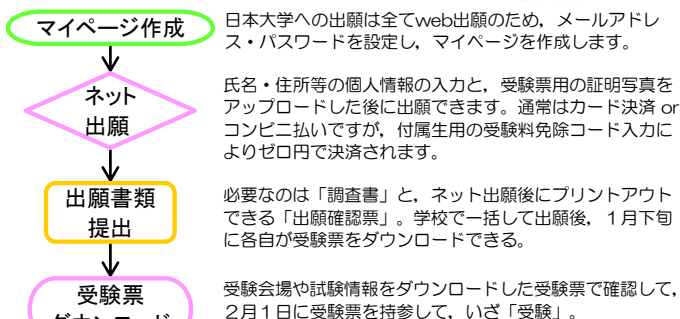
【佐藤重】

日大入試情報 N方式利用について

日本大学の一般入試は、全部で4つに分類されます。まずは各学部が独自に実施する「A方式」、大学入試センター試験を利用する「C方式」、大学入試センター試験と学部独自の試験を併用する「CA方式」、そして今回、お話しする「N方式」です。N方式は同一試験日、同一問題で複数の学部(学科)を併願することができます。学部間の併願だけでなく、同一学部内の複数学科への併願も可能です。入学検定料が18,000円(医学部は50,000円、歯学部・松戸歯学部は24,000円)になります。他大学では全学部入試などの名称で呼ばれています。

日大の場合、全16学部の中から最大15学科まで併願することが可能になっています。その場合、1学科出願ごとに18,000円必要になる訳です。単純に計算すると18,000円×15学科=270,000円…。結構な金額になりますね。しかし、**日本大学の付属生だけの特典として、N方式第1期に限り、15学科フルに出願しても受験料は無料という制度がとられています。**この制度を利用して、今年度は22名の生徒がN方式での出願を行いました。現高1・2で一般入試を念頭においている人は、是非、このお得な制度の利用を検討してみてください。

<日本大学N方式出願までの流れ>



【佐藤重】

評定平均ってどうやって求めるの？

いきなりですが、評定平均って知ってますか？ 本校では毎年、85%以上の生徒が推薦入試(付属推薦や指定校推薦など)で大学へ進学していますが、「評定平均」はこの推薦入試の出願条件でよく使われているんです。そこで今回は、評定平均の求め方を紹介したいと思います。



(1) 評定とは？

まず「評定」について知らなければ、「評定平均」も求められませんね。「評定」とは各教科の成績を5段階で表したもののことです。本校では年度末の通知表で知ることができます。評定の根拠となる成績は、定期テストの点数と平常点から算出されます。

(2) 評定平均の求め方は？

難しい計算は…不要です。高校で履修した全科目の評定を合計し、その科目数で割るだけです。四捨五入して小数第一位まで求めるので、「4.3」とか「3.5」といった数字で表されます。注意すべき点は、高3だけの評定ではなく**高1から高3までの履修したすべての科目を使う**ことです。では、シミュレーションしてみましょう。

(3) シミュレーション開始！

高1では、日本史Aを選択して次のような成績だったとします。なお、教科名は略称で表記しています。

科目名	国総	世史A	日史A	現社	数学I	数学A	物理基	化学基	生物基	体育	コ英I	英表I	社情
評定	4	3	3	3	4	3	3	4	3	5	3	4	4

科目の評定を合計すると「46」です。これを科目数の「13」で割ります。 $46 \div 13 = 3.54\dots$ よって、高1での評定平均は「3.5」

高2では、理系進学に在籍し、理科は物理、芸術は音楽Iを選択して次のような成績だったとします。

科目名	現文B	古典B	数学II	数学B	物理	体育	保健	音楽I	コ英II	英表II	家庭基	社情
評定	4	3	4	3	4	5	5	5	4	3	4	4

科目の評定を合計すると「48」です。これを科目数の「12」で割ります。 $48 \div 12 = 4.0\dots$ よって、高2での評定平均は「4.0」

高1では「3.5」だった評定平均が、高2では「4.0」となりました。しかし！ **評定平均は履修したすべての科目を使って求めます**から、高2までの評定平均は…！

高1と高2の評定の合計「 $46 + 48 = 94$ 」を高1と高2の科目数の合計「 $13 + 12 = 25$ 」で割ります。 $94 \div 25 = 3.76$ よって、高2までの評定平均は「3.8」となります！

どうですか、評定平均って思ったよりも上がりにくいという事に気がつきましたか？ ちなみに、上記の生徒が**高3になってオール5を取ったとしても評定平均は「4.1」**までしか上げられません。付属推薦の付属特別選抜や指定校推薦等は、高1からコツコツと頑張ってきた者にチャンスがあるわけです。定期テストも残り1回です。評定を少しでも上げられるように、授業や家庭学習に集中して取り組んでいきましょう！



【青木智】

高1 小論文テスト

1月17日(水)の2・3時間目に、小論文テストを実施しました。冬季休暇の課題であった『ステップ基礎小論文書き方ノート』を持参して直前の休み時間まで確認するなど、意欲的な姿が見られました。添削された答案の返却を、楽しみにしてください。

今回のテストでは、ほぼ全員が指定された文字数の9割以上を満たすことができました。また、全体の構成も意識して書いていました。一方で、「内容が薄くなってしまった」と悔しがっている人たちも見かけました。

小論文では、広く世間一般で問題になっている時事テーマについて意見を述べさせる出題が多いです。今回のテストでも、「食の安全」や「地域社会のつながり」という設問に対して、何も思いつかずに困ったという人もいたと思います。普段から新聞やニュース番組を見るよう心がけて、幅広い知識や情報を頭の中にストックしておく、このようなときに助かります。

新聞は難しいから…と敬遠している人は、現代社会や保健体育・家庭基礎(高2で履修)の教科書をしっかり読むことから始めてはいかがでしょうか。小論文で出題されるテーマが多く取り上げられており、教科書なので説明もわかりやすいです。また、国語総合の授業中に使用しているガイドにも「入試小論文」という特集があり、実例を挙げて詳しく解説しています。書店でも、受験参考書の小論文コーナーに、「キーワード集」「ネタ本」のようなタイトルの本が数種類あると思います。入試頻出テーマについて、その背景や対応策まで解説されていて読みごたえがあり、多くの情報を得ることができるでしょう。このようにして基礎知識を得た後で、また新聞にチャレンジしてみましょう。以前よりも読みやすく感じるはずですよ。

今回のテストや冬期休暇課題では、「動物がかわいそうだから反対」「コンビニの24時間営業は便利だから賛成」のように、自分の感情を根拠にして意見を書く人が多かったように思います。2月21日(水)のリライトでは社会的な視点も取り入れられるよう、今から準備を始めてください。



【竹原・青木智】

高2 保護者対象大学費用講演会

2月24日(土)13時より、高2保護者を対象に大学費用講演会を実施します。会場は8階視聴覚教室を予定しています(人数により当日変更あり)。1時間程度になりますが、今年度は、まず日本大学の付属推薦入試から説明し、その後一般入試まで内容を広げていく予定です。参考までに、以下、日本大学付属推薦における初年度納入金等を抜粋しました。



学 部	文理(理系)	経済・商	芸術(放送)	理工
受 験 料	35,000	35,000	35,000	35,000
入 学 金	260,000	260,000	260,000	260,000
初年度納入金	1,620,000	1,240,000	1,780,000	1,730,000

学 部	生産工・工	医	歯・松戸歯	薬
受 験 料	35,000	60,000	50,000	35,000
入 学 金	260,000	1,000,000	600,000	400,000
初年度納入金	1,660,000	6,350,000	6,900,000	2,450,000

上記の表の初年度納入金には、入学金が含まれますが、2年次以降は原則として入学金を除いたものとなります。その他に、教科書代や後援会費などが別途かかります。ちなみに、日大の学部で初年度納入金学が一番高額なのは医学部ではなく歯学部でした。

付属推薦では、原則として受験校は1学部1学科のみになりますが、一般試験ではそうはいきません。基本的には1回の受験で35,000円×受験校と考えると…。

さらに、この上に1人暮らしをするご家庭もあるかもしれません。何はともあれ『準備』が大切となってきますので、当日は様々な費用についてお話する予定です。

【田島寛】

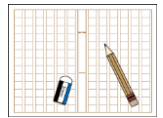
高2 小論文講演会 報告

1月17日(水)の2時間目に志望理由書についての講演会を開き、3時間目には冬休みに用意した下書きをもとに、講演会を踏まえてテストが実施されました。

講演会ではまず、なぜ志望理由書を書くのか、というお話をしていただきました。大学入試の選抜の材料になり、面接の対策にもなるというお話に加え、大学に入ってから mismatches を防ぐという役割もあるということでした。入れそうどころに何となく入ってしまうと、入ってからその大学や学部・学科での授業等に馴染むことができず、最悪の場合やめてしまうこともあります。そのようなことを防ぐためにも、志望理由書を書くことは、事前にしっかりと考える良い機会になるということでした。

また、書く内容の面では、何人かの生徒にも話を聞きながら、自分がその大学や学部・学科に興味を持ったきっかけを長々と書いてはいけないというお話がありました。大学が求めているのは、より具体的な将来へのビジョンと、それを学ぶことで社会的にどのような意義があるのか、さらに、なぜその大学や学部・学科でなければならないのか、ということです。これは一朝一夕で書けることではありません。今回、発言してくれた生徒の中にはしっかりと考えられている人もいましたね。皆さんも、書くために考えるのではなく、将来のために今からしっかりと考えていきましょう。

今回のテストは2月21日(水)に添削されたものが返却され、リライト(書き直し)をします。今回、うまく書けなかったこと、講演会を踏まえて気付いたことなどをよく考えて、より良いものが書けるように準備をしましょう。



【鈴木鷹・松本】

2月の進路行事

2月4日(日) 河合塾全統記述模試 (高1・2特進)	月
2月6日(火) 日大チャレンジ特別進学模試 (高1・2)	日
2月21日(水) 小論文テスト② (高1・高2)	(
2月24日(土) 高2大学費用講演会 (高2保護者)) 直

2月4日(日)の河合塾全統記述模試は、高1・高2の特進クラス対象で、今年度は校外会場の早稲田大学西早稲田キャンパスで実施されます。「国公立大・難関私大対策」で、高1は「記述式」、高2は「記述・論述式」の早期対策となります。

2月6日(火)の日大チャレンジ特別進学模試は、高1・高2が対象となります。試験範囲等はCompass1月号に掲載しました。高1は午前試験で午後平常、高2は終日試験です。4月・9月の基礎学力到達度テストの模試になるので、手を抜かず頑張りましょう。

2月21日(水)の小論文テスト②は、年間行事予定から変更し、3・4時間目で行われます。高1が講演会(教室でモニター)+テスト、高2が2時間ともテストになります。今回はリライトですので、添削された答案を見て、よりベストなものが書けるように！

2月24日(土)13時より8階視聴覚教室(予定)にて、高2保護者対象費用講演会を実施します。付属推薦入試でかかる費用についてをメインにお伝えしようと考えています。後日、参加届を配布いたします。



【伊藤秀】

次回3月号は、2月26日(月)発行予定です